

心をつなぐカレーライス

わたしは子どもの頃からカレーライスが大好きです。「好きな食べ物は何ですか？」と聞かれれば、今でも迷わずカレーライスと答えます。私の影響を受けてか、うちの子どもたちもみんなカレーライスが大好きです。

ある日、家族で出かけたときに、車の窓から一軒のカレー専門店が見えました。田んぼの中に一軒ぽつんと建っていて、黄色をベースにした看板がよく目立ちました。見るからに本場のカレーがいただけそうなお店です。

「次の外食はあそこで決まりやな。」

車の中は、カレーの話で大いに盛り上がりました。

数日後、新聞にその店の記事が載っていました。

「おーい、あのカレー屋さんが新聞に載ってるで！」

と私が呼びかけると、家族みんなが集まってきて、「何が書いてあるん？」と、興味津々です。読み進めるうちに、はじめは興味本位で聞いていた子どもたちの表情が変わっていくのが分かりました。その店を経営しているのはネパールの人たちでした。ネパールと言えば、4月末に大地震があった国です。今もネパールでは余震が続いていて、多くの人がテントで暮らし、毎日不安な日々を過ごしておられるそうです。お店のレジのところに募金箱を置いて支援を呼びかけたところ、たくさんの寄付金が集まったと書いてありました。新聞に写っている店員さんはとても優しい笑顔で手を合わせておられました。そして、「皆さんの『大きな』気持ちがありがたい。これは料理を食べた人から預かったお金。母国のために役立てたい。」とありました。

「お父さん、この人が作るカレーライスは、おいしいやろうなあ。」

と娘が嬉しそうに言いました。

「カレーライスが、日本とネパールをつないでるみたいやな。」

と息子が真剣な顔をして言いました。

次の土曜日、家族みんなでその店に行きました。お店は、お客さんでいっぱいでした。店員さんは、新聞に写っていた人以外に3人おられました。どの人も慣れない日本語を使いながら、一生懸命応対しておられました。

本場のカレーは私の想像を超えるおいしさで、幸せな気持ちに包まれました。そんな私の心を更に温めてくれる出来事がありました。それは、近所の方々がやってきては、一言二言店員さんに声をかけ、とりたての野菜や賄い用の惣菜等を置いて行かれていたことです。その度に店員さんがたどたどしい日本語で、「ありがとうございます。」と、嬉しそうな笑顔でこたえておられました。その様子を見ていて、近所の人にも大切にされているお店なんだと感じました。

生まれた国が違って、話す言葉が違って、相手を大切に思う心があれば、人と人は通じ合える。食文化に国境がないように、助け合い、支え合う心に国境はないということを、私は大好きなカレーライスを通じて実感しました。

帰りの車の中で子どもたちが楽しそうに話していました。

「ネパールのカレーおいしかったなあ。」

「今度は、あの店員さんと話がしてみたいな。」

「帰ったらネパールのこと調べてみようか。」

私は、そんな様子を横目で見ながら、「次の外食も決まりやな。」と心の中でつぶやいていました。